

鉄のまちの歴史を伝える歴史的景観の保全・復元



写真 電線類地中化と道路美装化の整備状況

事業の各段階のポイント

計画策定時のポイント

～「鉄の歴史村」宣言以来、景観まちづくりを推進～

平成11年より街並みの整備に取り組んでおり、その際、吉田町まち並委員会を結成した。住民協定を締結し、格子戸の設置や戸の変更などに取り組んでおり、あわせて個性ある鉄山師の街並み環境の保全・復元を進め、「鉄の歴史村」の継承を図ることとした。その中核となる旧田部邸は、周囲を土堀に囲まれ、最盛期には約40もの白壁の土蔵が立っていた。また、邸内には水車小屋や日本庭園等、玄関脇には御成門が設けられ、本宅においてはこけら藁の美しい木造建築であった。現在では老朽化が激しいが、修復してまちづくりにおいて活用できれば、集客力を伸ばすことに大きく貢献できると考えた。併せて、本通り地区内での住宅等の修景により、統一感のある街並みが形成できると考えた。



写真 旧田部家の白壁土蔵

事業実施期間中のポイント

電線類地中化の管路埋設工事において、下水道工事との同調施工が必要であるため、その調整を行いながら、また、イベント、地元要望及び天候等により限られた期間の中で施工をした。

事業完了後のポイント

住宅の修復として15件対応した他、街並み修景整備を行った結果、少しずつ景観に統一感が戻ってきた。

事業の反映に関するポイント

～総合的・一体的なまちづくりを進めるため、街なみ環境整備事業からまちづくり交付金に移行～

街なみ環境整備事業で進めてきたが、地域の創意工夫を活かした総合的・一体的なまちづくりを進めるため、まちづくり交付金の中の街なみ環境整備事業に移行した。

(注)事業の各段階のポイントは、各事業関係者より情報提供いただいた内容を取りまとめたものです。

事業の位置づけや背景

吉田町はたたら製鉄で栄えた田部家を中心にしたたたら製鉄の経営に携わった人々により構成され、独自の文化を現在に伝える町である。たたら製鉄は明治の洋鉄技術の導入によりすたれ、その後のエネルギー革命に伴い、人口が流失、さらに、昭和38年の豪雪により、過疎化は一段と加速した。

しかし、平成11年より街並みの整備に取り組み、吉田町まち並委員会結成、鉄山師の街並みづくりを目指し、住民協定の締結、格子戸の設置や戸の変更等に取り組み、この活動が評価され、平成14年度には総務大臣表彰の住民団体部門を受賞した。

事業内容

街なみ環境整備事業では、下水道整備等並行して進められている各施策との整合を図りながら、ゆとりと潤いのある住環境の形成と自然・文化・歴史的空間を演出した街並みづくりを推進する。

■事業計画諸元

- 事業名：街なみ環境整備事業【本通り地区】
- 事業主体：雲南市
- 位置：雲南市吉田町
- 総事業費：約3.7億円
- 事業概要：

- ・地区面積：5.6ha
- ・計画期間：平成16年度～平成20年度
- ・構成事業：
 - 小公園（110㎡）
 - 道路美装化（3,407㎡）
 - 案内板（5基）
 - 街路灯（9基）
 - ストリートファニチャー（2基）
 - 電線類地中化（450m）
 - 塀壁（35m）
 - 修景（15棟）

事業効果

当初からの目的であった「街並み景観」は向上した。しかし、来街観光客数の増加については、今後経過観測する必要がある。

地区等の問題点・課題

吉田村は平成16年11月1日近隣5町と合併し、雲南市となった。行政の中心地から周辺過疎地への移行であり、吉田町での人の流れ、消費の落ち込みなど、さびれ対策が急務となっている。またこの地域も中心地の空洞化現象と高齢化現象を起こしており、新たな定住対策が求められている。

事業の目標・整備方針

個性ある鉄山師の街並み環境の保全・復元を進め、「鉄の歴史村」の継承を図る。

■事業経緯

昭和61年度	「鉄の歴史村」宣言を行い、文化戦略にのった地域づくりを開始
平成11年度	「吉田町町並協定書」が締結され、門戸の色彩の調和、瓦の色彩統一などが開始 それ以降、敷地内の樹木の管理の徹底や玄関へのフラワーポットの設置など美化活動等が活発化
平成16年度	小公園、塀壁、修景
平成17年度	道路美装化（堀越線・川原町線・上町下町線・若槻屋小路・下綿屋小路）、案内板、街路灯、電線類地中化、修景
平成18年度	道路美装化（堀越線）、電線類地中化
平成19年度	道路美装化（堀越線）、電線類地中化、案内板、ストリートファニチャー
平成20年度	道路美装化（堀越線）、街路灯、電線類地中化

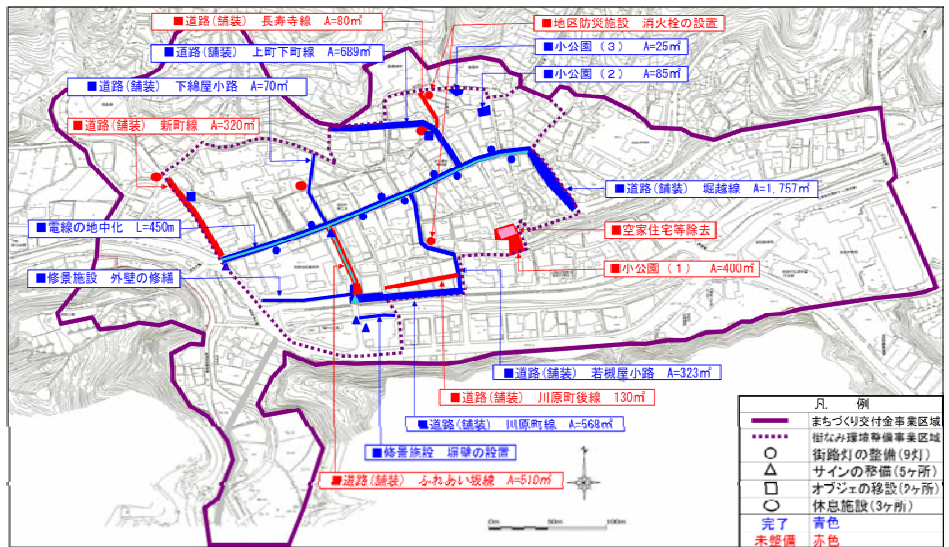


図 事業位置図



写真 整備後の状況

資料提供：鳥根県雲南市